

持続可能な社会の実現に向けた イオン脱炭素ビジョンの取り組み事例

2023年 1月10日

イオン株式会社

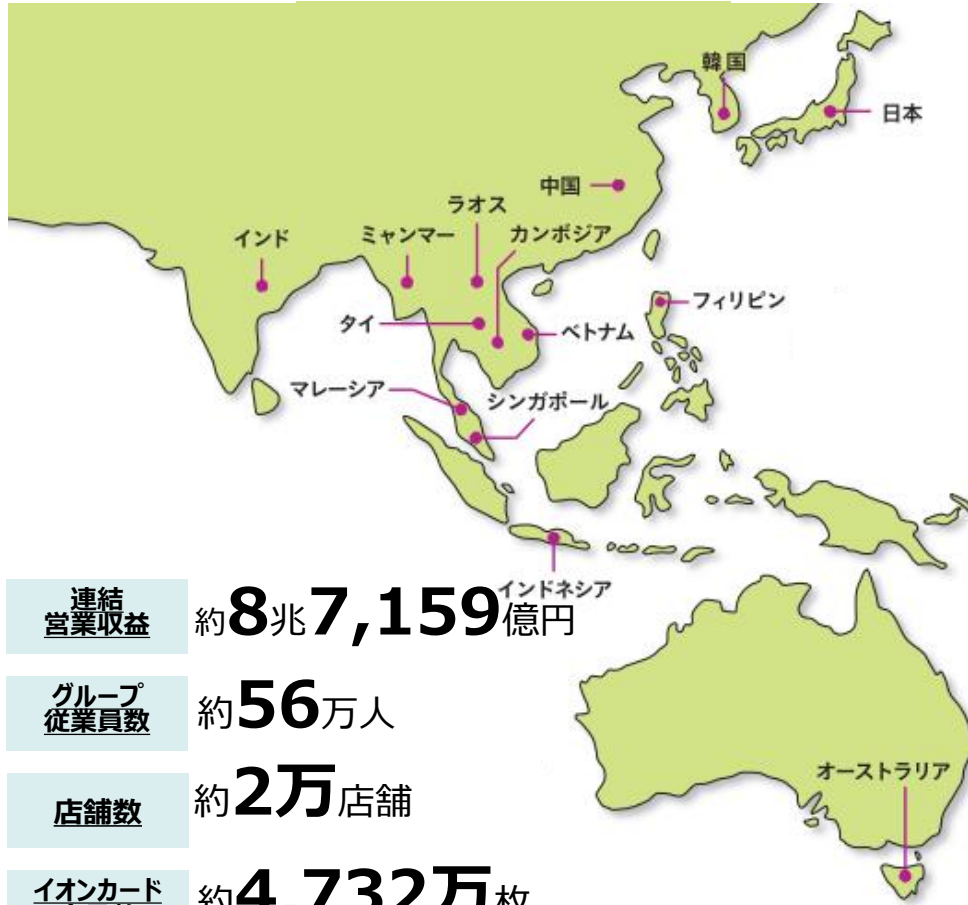
環境・社会貢献部 部長

鈴木 隆博

イオングループの概要

- 人と地域を豊かにする生活産業

小売を中心に多様な事業が有機的に結びつき、シナジー創出



<グループ企業 一例>



連結
営業収益 約**8兆7,159**億円

グループ
従業員数 約**56**万人

店舗数 約**2万**店舗

イオンカード
会員数 約**4,732万**枚

WAONカード
累計発行枚数 約**9,113万**枚

2022年2月末時点

イオンの環境・社会貢献活動の歩み

1990

2000

2010

2020

環境



1990～ イオン環境財団設立/地球にやさしいジャスコ委員会 発足

1991～ ふるさとの森づくり/買い物袋持参運動/店頭資源回収運動

2004 エコストア1号店開店

2006～ MSC認証商品販売

2007～ レジ袋無料配布中止

2008 温暖化防止宣言

2013 累計植樹本数1,000万本突破

2020～ レジ袋無料配布終了/再エネ100%店舗誕生

2014～ ASC認証商品販売

2017～ フードドライブ

2018～ RE100参画

2021～ Loop商品発売

地域社会



1990～ イオン1%クラブ設立

1996～ イオンチアーズクラブ発足

2000～ アジアでの学校建設支援

2001～ 黄色いレシートキャンペーン

2007～ 認知症サポーターキャラバン 参画

2012～2020 心を繋ぐプロジェクト

2019～ 首里城復興支援

2020～ イオン子ども食堂応援団

2021～ イオンハートフルボランティア

脱炭素社会の実現を目指して、「イオン脱炭素ビジョン」、及び、中間目標として2030年の温室効果ガスの排出削減目標を策定

■ GHG削減の3つの視点

店舗

店舗で排出するCO₂等を総量でゼロにします。

商品・物流

事業の過程で発生するCO₂等をゼロにする努力を続けます。

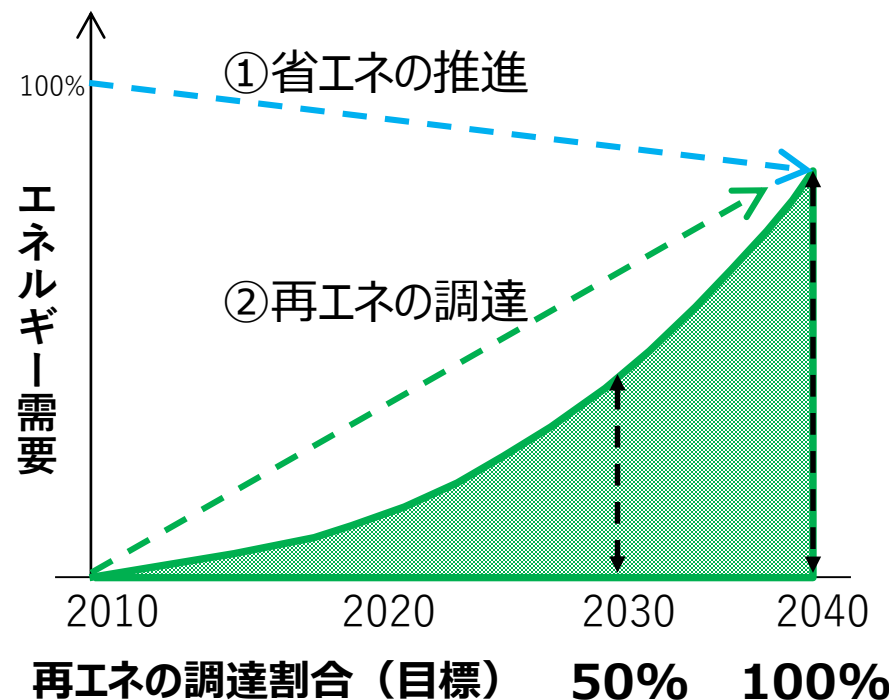
お客さまとともに

すべてのお客さまとともに、脱炭素社会の実現に努めます。

■ カーボンニュートラルへのロードマップ

達成目標：2040年カーボンニュートラル

中間目標：2030年大型店舗の再エネ化



店舗：使用エネルギーの再エネ化

- 店舗、事業所へ再エネ設備の積極導入（1,000店舗以上）



店舗：使用エネルギーの再エネ化

- 大型SCは2030年までに全店再エネ100%化、全国各地のSMも再エネ100店舗を順次拡大中

■ マルナカ まんのう公文店 (MV西日本、2022年10月開店)



香川県仲多度郡まんのう町公文字垂水上367-5
敷地面積: 1,985m² 駐車台数: 140台

まんのう公文店は、当社初の再生可能エネルギー100%使用店舗です。

省エネへの取り組み
LED照明

省エネによる電気使用量 (CO₂) の引き下げ

創エネへの取り組み
太陽光発電 (PPA方式)

自家発電による化石由来電力の削減

脱フロンへの取り組み
冷蔵・冷凍ケースの自然冷媒の採用

自然冷媒の採用により温室効果ガスを削減します

脱炭素への取り組み
グリーン電力の購入

再エネ発電 電力会社
グリーン電力
化石由来の電力購入ゼロ化

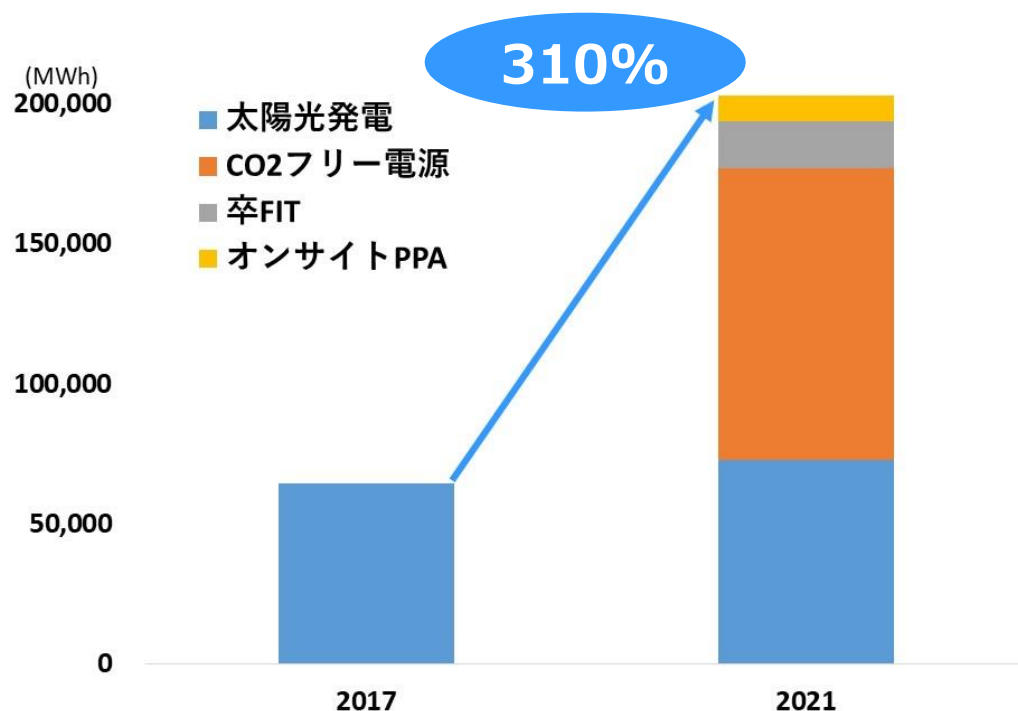
CO₂=0
Zero Challenge!
CO₂ゼロチャレンジ

※太陽光発電設備からの電力供給開始は、2023年2月予定

店舗：使用エネルギーの再エネ化

- 店舗、事業所 地域の特性に応じた再エネ導入を推進
- オンサイトPPAを活用して再エネ導入を加速（累計32店舗）

■ 再エネ調達量の推進



再生可能エネルギー調達量(21年度)：
約**20万MWh**

■ RE100店舗の拡大



13施設で導入(2022年3月時点)

オフサイトPPA

本気です。

イオンモールは、
まちの発電所をはじめました。

地域の元気、
発電中！

イオンモール
まちの
Mall power plant
発電所

店舗：再エネの調達（オフサイトPPA）

- 22年9月～ 地域の発電事業者や送配電事業者と連携し、「**イオンモール まちの発電所**」を稼働
- **自己託送方式による低圧・分散型太陽光の調達**

イオンモール
まちの発電所
Mall power plant



遊休地（耕作放棄地など）
で発電した電力を

送配電事業者の
送電ネットワークを介して

全国のイオンモールで利用

全国約 **740**か所（約65Mw）

全国約 **30**施設で利用

お客さま：家庭余剰再エネ（卒FIT）活用

- お客さまにご協力いただき、**家庭で過剰になった再エネを店舗で活用**
- **余剰電力の供給量に応じて、WAONポイントを進呈**

■ 卒FIT余剰電力の活用



施設の消費電力の**約25%相当分**をカバー

- 全国の店舗にEV充電設備を整備、EV普及・来店を促進

国内外

259施設、2,718基に設置(22年2月時点)

EV 100

へ正式参加

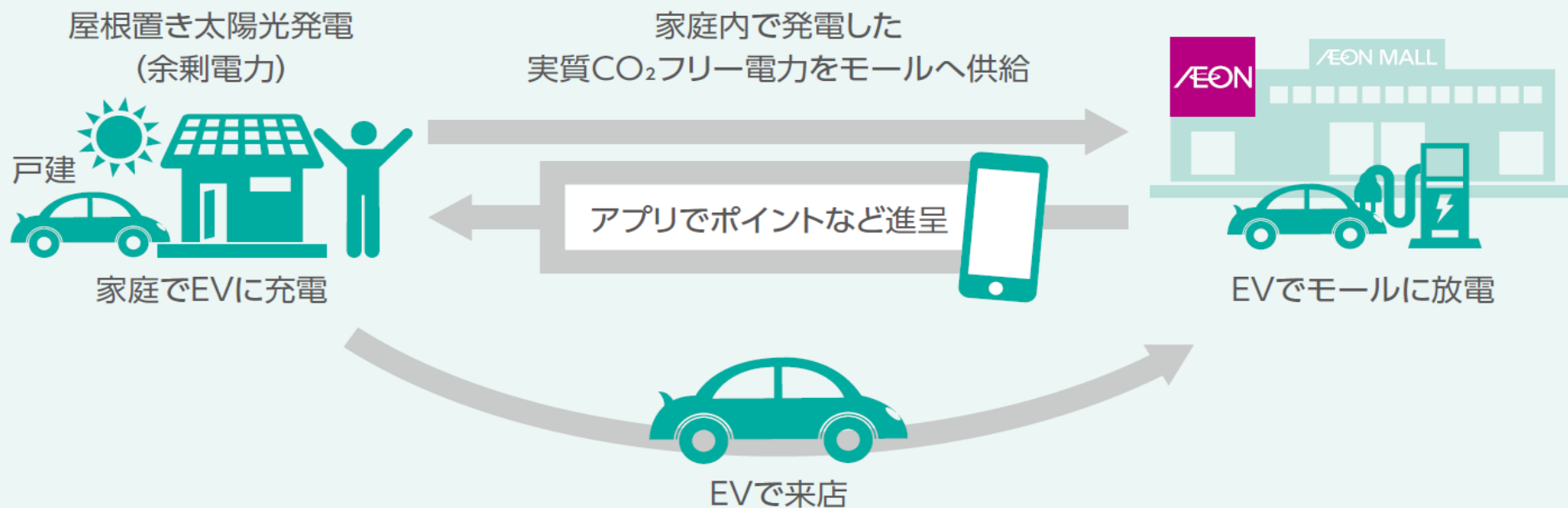
(イオンモール、2017年11月、
日本企業初)

イオンモール常滑
急速充電器2台／普通充電器2台

お客さま：EVを介した、お客さまからの再エネ調達

- 家庭で発電した余剰再エネをEVでモールに放電し、放電量に応じてポイントなどを進呈

R4 環境省 食とくらしの「グリーンライフ・ポイント」推進事業採択



従来のV2H(車から家:Vehicle to Home)から進化させた
V2AEON MALL(車からイオンモール)を推進し、
お客さま参加型の再生可能エネルギーの循環プラットフォームを整備します。

植樹活動や資源回収など、様々な環境活動に対してもポイント進呈できる仕組みを構築中

参考：家庭余剰再エネの活用実証

- EVを介して、家庭の余剰再エネを店舗に供給する実証を完了、2023年度サービス開始に向けて準備中



※2：2019年度ご参加いただいたモニターさま(4家庭程度)を対象に実施

関西電力異実験センターの技術・設備を活用。一般モニター宅へスマートメーターを設置し、イオンモール堺鉄砲町への環境価値移管をBC技術で管理。

実証の様子▶



イオンが与えている環境負荷（CO₂）

- イオンの事業活動を通じて、自社のみならず**サプライチェーン全体で大きな環境負荷を発生**させている。70%以上が上流での負荷

イオンが責任を持つべき範囲

原材料調達・商品調達

■原材料の調達

- ・森林破壊、減少
- ・水質汚濁
- ・農薬や肥料、土壌汚染
- ・乱獲、過剰資源消費等

■商品の加工・製造

- ・化石電力の使用
- ・海外工場の水使用

■廃棄等

- ・規格外品、期限切れ
- ・プラスチック包装等

物流

■輸送・配送

- ・運搬車両のガソリン、軽油の使用
- ・排気ガスや騒音

■保管

- ・冷蔵・冷凍保管

■商品（過剰包装）

- ・輸送時の梱包材やストレッチフィルム等

販売

■店舗開発

- ・開発時の生態破壊
- ・化石由来の建築材

■店舗運営

- ・化石電力の使用
- ・重油、ガスの使用
- ・フロン類の漏洩
- ・紙の使用

■廃棄物

- ・食品廃棄
- ・廃プラ、排水、廃油等

消費

■郊外型店舗

- ・ガソリン車で来店

■商品の使用

- ・水や電力消費
- ・使い捨て前提の設計

■商品の廃棄

- ・食品廃棄
- ・プラスチック包装の廃棄
- ・電子機器の廃棄

環境
負荷

CO₂
排出
量

サプライヤーの皆さまとともに

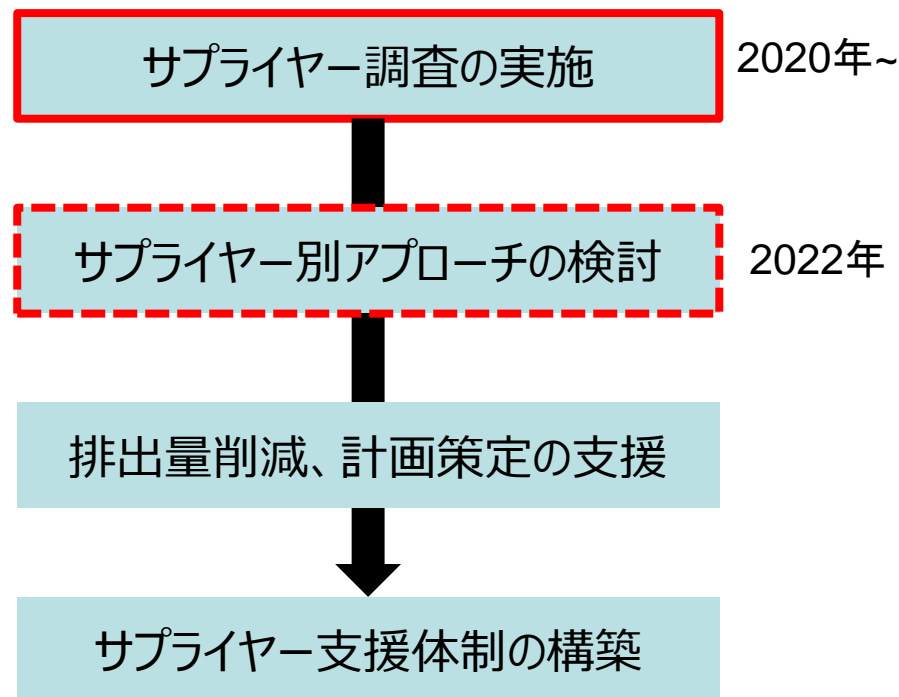
70%
以上

お客さまとともに

- サプライチェーン全体の脱炭素化を推進するため、PBトップバリュのサプライヤーと協働での削減の取り組みを開始

■ イオンのスコープ3排出量の内訳(20年度) ■ サプライヤーの脱炭素化のステップ

スコープ3排出カテゴリー	構成比
1 購入した製品・サービス	56.9%
2 資本財	16.9%
3 Scope1,2に含まれないエネルギー活動	5.0%
4 輸送、配送（上流）	3.6%
5 事業活動から出る廃棄物	1.9%
6 出張	0.0%
7 雇用者の通勤	0.8%
8 リース資産	0.0%
9 輸送、配送（下流）	0.0%
10 販売した製品の加工	0.0%
11 販売した製品の使用	2.1%
12 販売した製品の廃棄	1.2%
13 投資リース資産（下流）	11.4%
14 フランチャイズ	0.0%
15 投資	0.2%



PBサプライヤーへの質問事項の一例

GHG排出量の把握と削減目標

- エネルギー使用量（スコープ1， 2）
- スコープ1、2排出量削減に係る目標
- SBT※1の認定の有無
- スコープ3排出量の算定
- スコープ3排出量削減に係る目標
- スコープ3排出量を削減できていない理由、ボトルネックについて

ガバナンス・推進体制

- 気候変動・脱炭素に関する「方針・戦略」の有無
- 上記の戦略・方針は取締役会レベルでの決定・承認の有無
- 気候関連課題への取組を推進するための部署
- 気候変動に関する取組結果・目標設定等の重要な決定事項について取締役会への報告
- 気候変動が事業に与えるリスクの把握など

- 商品を運ぶ物流過程での脱炭素化を推進

■ モーダルシフトの推進



メーカー 7 社と共同で
専用列車を運行

■ 自社物流の脱炭素化



自施設で発電した
電力を活用した、
EV化の実証中



物流の効率化と、配送員
の労働環境整備のため、
長距離輸送の中継輸送
を開始



移動販売車の
FCV化
(イオン東北)

商品：Loopの概要

- サプライヤー、お客さまと協働し、“使い捨て”から“繰り返し”使う ライフスタイルへの転換を推進する → ゼロウェイストの実現

■ Loop 21年5月からサービス開始



商品：Loopの概要

- サプライヤーと協働し、各地域での回収、製品化のインフラを整備し、店舗数、取り扱い品目を拡大中

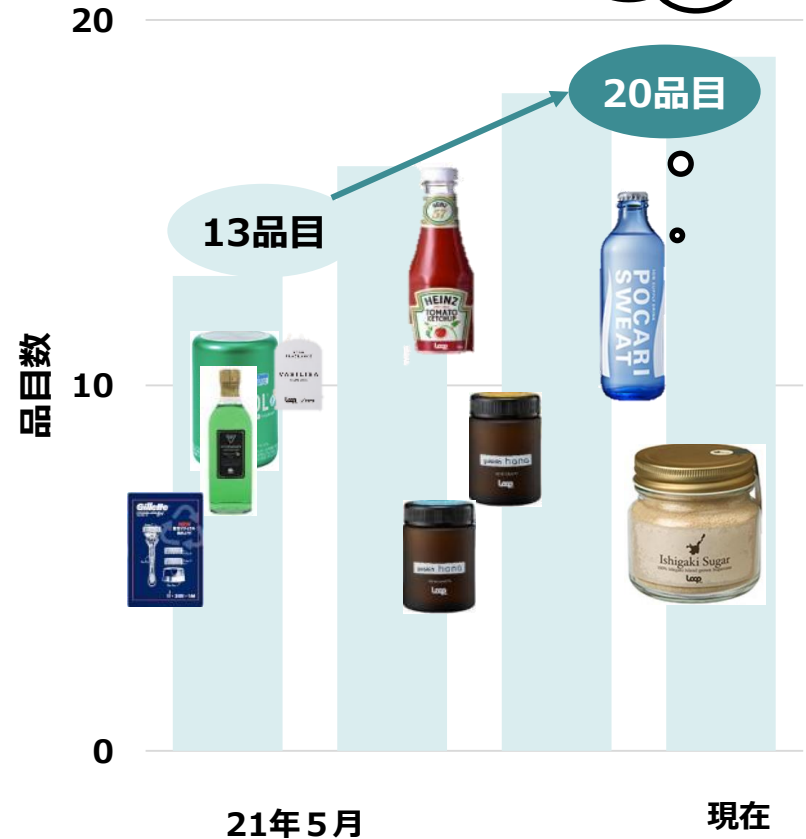
■ 取り扱い店舗拡大



22年度中に58店舗→**100店舗**に拡大予定

- **関東圏から拡大、京都、広島、兵庫で展開**
(現在78店舗)

■ 取り扱い商品拡大



お客さまとともに：店頭資源回収

- 22年10月～ イオンモール北大路にて、リサイクルルートが確立されていない廃プラスチックの回収、リサイクルを開始

■回収品目の拡大（日用品プラスチック容器・パウチ、事務用品、食品プラスチック容器・プラスチック包装）



日用品のプラスチック容器

○回収できるもの
シャンプー、スキンケア、洗剤などのプラスチック製容器

×回収できないもの
ビンや缶の容器
（洗剤などのビンや缶も「日用品の詰め替えパウチ」で回収可能）

注意：中身は全て使い切って洗って乾かし投入ください

日用品の詰め替えパウチ

○回収できるもの
シャンプー、洗剤などの詰め替えパウチ

注意：中身は使い切ってハサミで切って洗って乾かし投入ください

プラスチック製の事務用品・容器包装

○回収できるもの
プラスチック製のペン、クリアファイル、定規、修正テープ、替え芯容器など

×回収できないもの
ハサミ、ホッチキスなど金属が含まれるもの

食品のプラスチック容器

○回収できるもの
プリン・ヨーグルト容器、果糖飲料ボトル、パックご飯容器、食品保存容器などのプラスチック製容器

×回収できないもの
ペットボトル、食品トレー
（食品トレーは「食品プラスチック包装」で回収可能）

注意：洗って乾かして汚れを取り除いてください

食品プラスチック包装

○回収できるもの
お菓子、乾麺、冷凍食品などの包装、食品保存袋などのプラスチック包装

注意：洗って乾かして汚れを取り除いてください

